

第1回学術講演会のお知らせ

日時：令和7年5月21日(水)午後7時30分

＊午後7時より、オーラルスキャナー実機展示

場所：葛飾区歯科医師会館

演題：不可欠になるであろう口腔内スキャナー（IOS）の導入および利用法
～磁性アタッチメント利用やインプラント治療含む～

講師：ITI フェロー、千葉県柏市開業

田中 譲治先生

抄録

一般産業界のハイテクが歯科に応用され、特に CAD/CAM の進歩は目覚ましく「適合をねらうなら
鑄造でなく CAD/CAM」という歯科補綴のパラダイムシフトを引き起こし、保険診療にも浸透するな
ど CAD/CAM システムは成熟期となっています。しかし、印象採得については、いまだ印象材による
アナログに頼っているのが現状であったといえるでしょう。このような中、口腔内スキャナー（以下
IOS）が進化を遂げて臨床のルーティンワークになろうとしています。実際に、演者はすでに自費診療
やインプラント補綴のほぼすべてを IOS にて製作しており、難しいと言われているフルアーチをはじ
め、さまざまな臨床に応用しています。そこで、IOS の導入を考えている方への活用ポイント、覚えて
おきたい撮影のコツ、歯肉縁下撮影テクニックである「エア法」、増患につながる患者説明などの
IOS の利用法を紹介したいと思います。

口腔内スキャナーの利点としては、印象材の不快感、嘔吐反射に対応/印象材歪、石膏硬化歪を解消
/噛みしめた状態で製作できるため咬合調整がわずかで済む/印象材、石膏、トレーなどの材料コスト
削減/インターネット利用で輸送時間短縮、遠方でも可/石膏注入作業の削減および感染リスクの低減
/リアルタイムでデータを確認でき、その場で再スキャンも簡便/データを 3D 上で自由に加工でき、
CT との重ね合わせも容易/などが挙げられます。そして、義歯においても口腔外で旧義歯を全周スキ
ャンする「IOS デンチャーコピー法」による義歯の新製法、3D プリンターの利用も加わり、コピー
デンチャーへの応用、フェイススキャンの利用によるあたかも患者さんがいるかのような技工、加え
て、在宅診療においても高い有用性があります。

2021 年 9 月に保険収載され、2024 年 4 月には点数が大幅に増点された磁性アタッチメントの活用
にも触れるなど、先生方の明日からの診療にお役に立てれば幸いです。

<略歴>

1986 年 日本大学松戸歯学部卒業

1989 年 千葉県柏市にて開業

1995 年 MACS 研究会設立 現在主宰を務める

2008 年 日本大学松戸歯学部 臨床教授 現在に至る

2014 年 一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 施設長 現在に至る

<現在>

日本口腔インプラント学会 理事・指導医・認定医/日本磁気歯科学会 理事/

日本歯科審美学会 理事/日本アンチエイジング歯科学会 理事/

柏歯科医師会 生涯研修 委員/北原学院歯科衛生専門学校 非常勤講師/

ITI フェロー/ITI SC 関東 2 前支部長/ITI SC 千葉北 前 Director/

柏・東大スタディー協力医